



講義・研究棟：製図室のイメージ



「人と建物を繋ぐ」ことをコンセプトにした新棟は、次代に対応し、新たな学修機能を集約した「講義・研究棟」とキャンパス内の多様な交流を促す「学生交流棟」の2棟構成としています。

「講義・研究棟」は鋸刃状の西側壁面が特徴的な建物です。文部科学省認定の「地域課題解決型AI教育プログラム」推進の核となるAI応用研究所やPCを活用した製図室、AR・VR・プロジェクションマッピング等に対応した多目的活動室等の学修機能を配置します。

「学生交流棟」は「講義・研究棟」との間の渡り廊下と100号館・3号館につながる渡り廊下を設置した螺旋形状の建物です。通路をスロープにしたバリアフリー構造とし、学生のワークスペース、図書館とカフェを融合したブックカフェ等を配置します。

この2つの建物からなる新棟は「学生交流棟」を中心に、キャンパス内を移動する中で、自然と学生の交流が生まれるような開放的な施設とします。学生の皆さん一人一人のストーリー作りを応援する施設として、新棟建設を進めています。

学生交流棟グループワークホール及び通路のイメージ



新棟概要紹介

講義・研究棟

学生交流棟

concept 新棟のコンセプト・特徴

「人と建物を繋ぐ」 ～多様な交流を促す～

◆ 機能と役割を明確化した特徴的な2棟構成

1 講義・研究棟：3階建、約1,800㎡

- ・鋸刃状の壁面が特徴
- ・学修機能に特化し、AI応用研究所、教室等を配置

2 学生交流棟：2階建、約620㎡

- ・特徴的な螺旋構造(バリアフリー)
- ・螺旋の外周にスロープ状の通路、内側にグループワークホール、図書館、カフェ(ブックカフェ)等を配置

◆ 学生交流棟を中心に既存施設と渡り廊下で接続 キャンパス内を移動する中で、交流を促す構造



学生交流棟を拡大したパース図です。交流棟の右下側の入り口から入り、螺旋を描きながら、段階的に高さを増していく構造が分かります。



学生交流棟1Fの構造です。中心部分は吹き抜けとなっており、自然光を取り入れたピロティとなっています。

